

## 令和4年度第1回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和4年5月23日(月) 午後6時30分～7時30分
- 2 開催方法 Web会議システムによるオンライン開催
- 3 出席者 <委員>  
古田委員、石黒委員、田邊委員、塚本委員、斎藤委員、鈴木委員、鵜浦委員、油山委員、志寒委員、樋口委員、村山委員、関口委員  
吉岡委員(高齢施策担当部長:部会長)、阿部委員(高齢者支援課長)、平川委員(高齢社会対策課長)、風間委員(介護保険課長)、屋澤委員(地域医療課長)  
<事務局>  
高齢者支援課
- 4 公開の可否 オンライン会議のため非公開
- 5 次第
  - 1 開会
  - 2 令和3年度練馬区在宅療養推進事業実施結果について
  - 3 令和4年度在宅療養推進事業スケジュールについて
  - 4 もの忘れ検診令和3年度結果(報告)
  - 5 地域連携型認知症疾患医療センター練馬区民講座報告
  - 6 令和4年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組みについて
  - 7 その他
- 6 資料
  - 資料1 令和3年度在宅療養推進事業実施結果
  - 資料2 令和4年度在宅療養推進事業スケジュール
  - 資料3 令和3年度もの忘れ検診結果
  - 資料4 地域医療型認知症疾患医療センター練馬区民講座報告
  - 資料5 令和4年度チームオレンジ活動及び本人発信支援の取組みについて
- 7 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅介護支援係  
電話 03-5984-4597

### 8 会議の概要

(部会長)

【挨拶】

(事務局)

【出席確認、資料確認】

(部会長)

次第1資料1 令和3年度練馬区在宅療養推進事業実施結果について報告を。

(事務局)

【資料1】について説明。

(部会長)

本件について質問、意見等はいかがか。

(部会長)

次第2 令和4年度在宅療養推進事業スケジュールについて説明を。

(事務局)

【資料2】について説明。

(部会長)

資料2について意見や感想はいかがか。

(部会長)

次第3 もの忘れ検診令和3年度結果について事務局から説明を。

(事務局)

【資料3】について説明。

(部会長)

本件について、意見、感想等はいかがか。

(委員)

去年初めてもの忘れ検診を実施し、受診する人がいないのではという不安もあったが、思ったよりは受診された方が多く良かった。当医院の実態としては、かかりつけの方から二人、かかりつけ以外の方から2人問い合わせがあった。結局どうしようかなと迷っている方が多くて2人は受診されたが、残り2人は迷った末に受診されなかった。その2人のうち1人はMCI、軽度認知障害でかかりつけ医連絡書を書いて、主治医に注意を促すということで1人が引っ掛かったが1人は正常だった。今年度は多数配られていると思うので、検診の機会だけれども、どうしたものかと思って悩んでいる方が結構多いのでは。受けた方がいいのか、受けない方がいいのか。そもそも受ける必要があるかないかと迷ってる方が多く、なかなか本人が判断できなくて、家族に押されて受けに行く方もいるし、自発的に受けに来る方もいる。その辺がもの忘れ検診の難しいところで、認知の検診だということで自分が認知じゃないと思っている方も結構多い。この検診の曖昧な部分は、ひっかけなくちゃいけない検診だが、積極的に推奨して勧奨すると、私は認知じゃないわ、となるので、街かどケアカフェ的に医療機関に相談していただく感じの検診になると、皆さんの受診が増えるではないか

と思う。

( 部会長 )

ありがとうございました。皆様が受診できる体制づくりをすすめていきたい。

( 委員 )

資料の支援内容と同じだが、迷っている方の背中を押すきっかけとなっている印象を持っている。受診した方の中で、地域包括支援センターから連絡をとった方の中には、支援は必要ないと必要性をあまり感じていない方もいるが、地域包括支援センターとしても把握のきっかけにもなるため、せっかくの制度を活用する方向で進めていきたい。

( 委員 )

検診事業が始まる前は自治体の先生方が非常に不安を抱えてらしたが、始まると非常にスムーズに進められていて素晴らしいと思う。認知症疾患医療センターとしての慈雲堂病院や、地域の陽和病院がバックアップされているのだろうと思うが、板橋区ではこの事業を行っていないため、認知症疾患医療センターと区という繋がりでは、練馬区は非常にうまくいっているケースの一つではないかと思う。地域包括支援センターが訪問に入るなど、繋がりができることはこの事業の肝だと思う。非常に素晴らしい。これからもよろしくお願ひしたい。

( 部会長 )

次第 4 地域医療型認知症疾患医療センター練馬区民講座報告について説明を。

( 事務局 )

【資料 4】について説明。

( 委員 )

練馬区の区民向けの公開講座は、コロナの前は集合形式で開催していたが、できなくなったため、小さな講義をたくさん収録した動画を公開するという形にしている。資料にあるように、( 1 ) 認知症についての講演については以前に収録したもので私が認知症についての説明をしたものです。( 2 ) じうんどう発！！転ばない体操は、認知症防止の体操というより筋力を維持するための体操を独自に考え出し収録したもので作業療法士が主に参加している。( 3 ) ~ ( 5 ) は薬の話で当院の薬剤師が薬についての説明をしている。( 6 ) 地域包括支援センターの機能と役割は、南大泉の地域包括支援センターにお願いしてお話をしていただいた。とても分かりやすく話していただいた。( 7 ) ~ ( 8 ) は受診について、認知症疾患医療センターとは何かについて精神保健福祉士が説明している。( 9 ) の認知症デイケアは、医療で行っている重度認知症デイケアのことだが、当院のデイケアの作業療法士がプログラムについてや、デイサービスとの違いについて説明をしている。( 10 ) 高齢者の口腔ケアは当院の歯科衛生士が口腔ケアについての解説をした。( 11 ) 練馬区におけ

る認知症施策は区の担当者に説明をしていただいた。とても分かりやすく話していただいた。12のみんなで目指そう！ピンピンコロリということで運動編と栄養編がある。当院の管理栄養士が栄養のことや、認知症予防の観点から心がける栄養について説明している。最後の13はオレンジカフェについて担当している精神保健福祉士が解説している。多彩な動画だが、練馬区民向けということで限定した対象者へ向けて公開しているため、チラシを配布してアドレスとQRコードを載せたほか、病院のホームページにアクセスしてバナーをクリックすると飛ぶようにしている。アクセス数はまだ二桁くらいで30から50程度。認知症の知識についてなど以前から公開しているものは100位のものもある。

練馬区民の方に今後どうやって動画を知っていただくかが課題である。内容についても教育講座のようになっている部分もあり、もう少し分かりやすく説明するなど改善する箇所がある。感想を収集するシステムではなく視聴するだけなので、今後どうしていくかは検討していこうと思っている。現在も公開しているので見てない方がいらしたらぜひ見ていただきたい。

( 部会長 )

ありがとうございました。区のホームページにもリンクをのせているのでご活用いただきたい。

( 部会長 )

次第5令和4年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組みについて説明を。

( 事務局 )

【資料5】について説明。

( 部会長 )

本件について、質問、意見、感想等はいかがか。

( 委員 )

キャラバン・メイト連絡会の長田さんの講演はとても良かった。ご本人の話しで、長田さんはとても前向きでエネルギーのある方で、非常に説得力のある話し方で、認知症になっても人と交わりをもつことの大切さを非常に丁寧に話してくれていて、とても感動した。こういう場がたくさんあるということは非常に素晴らしいことだと思う。認知症になってしまうと、こもりがちで家から出なくなってしまう人のほうが多いような気がするが、そうするうちに認知症が進行してしまうかもしれないし、できる限りみんなが集まれる場所に集える場があって、本人がしゃべる場がたくさんあると有難いと感じた。これからの認知症サポーター養成講座の中でも長田さんのビデオメッセージを使うことは効果的な方法だと思う。

( 委員 )

サポーター養成講座の際にお願いしていることとして、標準テキストに加えて認知症ガイドブックは必ず区民の方に配付していただいている。委員が言われたように私もキャラバン・メイト連絡

会で長田さんのお話を聞きました。ビデオの流し方というか、受講者への見せ方を考える必要はあると思うが、皆の支えがあれば、こんなに元気に過ごせる、というような部分を分かっていたくためにも、とても大事なことだと思う。今回の資料にある本庁舎の通路展示も、私は見ることができなくて残念に思っていたが、ここにも認知症ガイドブックが置いてある。自分の利用者さんのご家族の経験からも感じていたが、こういう、この一足先に認知症になったわたしたちからすべての方たちへ、というような、こういったメッセージに、もの忘れ検診の大事さがあるのではないか。70歳と75歳だけではなくても、もの忘れ検診を逡巡されてる方がたくさんいる。相談される利用者さんのご家族とか、迷われている方にも、相談先や受けられる支援について資料を配るような発信とか、この部会で皆さんと話をしたり、情報をいただいている内容も難しくなく、差し支えない程度で、これからも認知症サポーター養成講座の中で話していくことがとても大事ななと考えさせられた。

(委員)

グループホームでご本人の意見を聞いている。生活ぶりをネットのサイトに原稿を書いたり、薬剤師さんの雑誌で書いたりしている。できるだけ認知症の人の生活を当たり前の人の生活として伝えていきたいと考えている。地域活動で行っているおたがいさまの会で、おたがいさまチャンネルという YouTube の動画を配信しているが、そこで認知症のご本人の方のインタビューを収録して流したり、かなり前だが、丹野さんの若年性認知症のご本人の講演会の様子を流したりしている。今後は若年性認知症の方だけでなく、もの忘れ検診を受けた人で、受けて良かったという人がいればそのご意見を紹介したりとか、本人ミーティングの場でインタビューさせていただいて、それを動画にしていければ一層認知症の人のポジティブな実態が分かってくるのではないかと思う。

(部会長)

ありがとうございます。認知症の人の前向きな姿の発信はすべての人にとって良いことである。今後も発信をお願いしたい。

(部会長)

次第6その他について説明を。

(事務局)

委員から認知症ご本人へのインタビュー動画について情報提供いただいたので詳しく紹介をお願いしたい。

(委員)

いろいろなイベントで一緒している板橋区在住の若年性認知症ご本人の方で、今は健康長寿医療センター関連の「高島平ココからステーション」でご自身がファシリテーターで本人ミーティングをされたり、認知症が心配な人たちが集まってそこで知りたいことを追求していく認知症ゼミナールをされていて、まさしくご本人主体で活動し、認知症の人を支える活動が認知症の人の手によってされている。とても感銘を受けて、さすがにココからステーションほどはできないが、介護学ベ

るサロンというツールもあるので、それを生かして多世代やいろんな方を巻き込めるようなことをしていきたい。その一歩として、おたがいさまチャンネルに取り組んでいる。おたがいさまチャンネルで一番閲覧数が多いのは丹野さんの講演会と、デリソフトーという食べ物を柔らかくする家電の動画が1800回ぐらい視聴されていて、認知症に関することではない動画の方が認知度があるが、今後も情報発信に心掛けていきたい。あくまでもご本人を中心とした情報発信をしていきたいと考えている。皆さんもおたがいさまチャンネルで検索するとYouTubeの動画が観られると思うのでよろしくをお願いします。

(部会長) ぜひ時間を作って視聴いただきたい。ご本人を中心とした暮らしについてどのように皆が生活していけばいいのかについて考えることができるのではないかと。

(部会長)

次回日程について説明を。

(事務局)

今回は令和4年10月27日(木)を予定している。方法は情勢により決めるがオンラインを予定している。

(部会長)

【挨拶】

閉会